「楠田大蔵市長と語る会」（要点記録）

□ 行政区　高雄区

□ 日時　令和元年 11 月 16 日（土）午前 10 時～午前 11 時 36 分

□ 出席者　（市民）　22 人（当該区：21 人　その他：1 人）
（執行部）12 人
市長、副市長、教育長、総務部長、総務部理事、総務部理事、市民生活部長、健康福祉部長、都市整備部長、観光経済部長、教育部長、議会事務局長
（事務局）　4 人
経営企画課長、地域コミュニティ課長、広聴広報係長、広聴広報係員

□ 会議内容

1	開会のことば	午前 10 時～
2	自治会長あいさつ	午前 10 時 4 分～
3	市政報告	午前 10 時 5 分～
4	意見交換（別紙）	午前 10 時 39 分～
5	閉会のことば	～午前 11 時 36 分

		質問・意見等	区に対する回答
質問者１	意見１	回覧板によるPR不足について。もう少し工夫して書かれていれば、この市長と語る会にもっとたくさん人が集まったと思う。	（市長） 本日高雄区の皆様に多く来ていただいておりますが、人口比からしますとまだまだ多くの方にお越しいただければありがたいと思っておりますし、時間の設定などもあるかと思います。そうした事も含めまして今後のPR、例えば市報を使う、ホームページで呼びかけをする等様々な方法はあると思いますので、出来るだけ多くの方にお呼びかけをし、お越しいただき、お声をいただけるような会に更にすべく努力、工夫を重ねていきたいと思っております。

		質問・意見等	区に対する回答
質問者１	意見２	教育委員会嘱託職員の不祥事にどのように対処したのか教えていただきたい。	（市長） 嘱託職員が逮捕されるという事案で、教育長をはじめすぐ記者会見をいたしました。そして私が議会冒頭でもお詫びを申し、職員向けにそうした疑いをもたれないように気を引き締めて職務にあたるように伝えたところです。一方、結果として不起訴という形になりました。逮捕されて全て有罪扱いするのも今の法制度の中での問題もありますし、職員を信じたいという気持ちもあり、難しい判断ですが結果として先日処分なども決まっております。 （教育長） 嘱託職員の不祥事につきましては 8 月に生じ、新聞等で大きく報道され、私もお詫びをさせていただきました。その後、10 月 2 日付で地検の判断で諸般の事情を考慮して不起訴になりました。私どもといたしましては教育委員会に対する信頼を失ったということにつきまして重く受け止めており、市の懲戒委員会で審議をし、その後教育委員会でも承認を得て、適正な処分をさせていただきました。 【後日回答：教育部】 嘱託職員が勤務していた教育支援センターには、保護者説明会を開催するとともに、一定の期間、教育支援センターにスーパーバイザー・スクールカウンセラーを配置し、児童生徒及び保護者の不安払拭に努めました。10 月 2 日付で不起訴となりましたが、10 月 11 日の市の懲戒審査委員会で審議され、同日の臨時教育委員会により処分を正式に決定しました。また、同日、嘱託職員から退職願が提出され、受理しております。以降、職員の服務規律の徹底を図り、市民の信頼回復に努めております。

		質問・意見等	区に対する回答
質問者１	意見３	図書館になかなか行けないので移動図書館を楽しみに利用している。移動図書館の素晴らしいチラシが市から各区に配られたので利用者が増えるかと思ったが、その効果があるように思えない。これもPR不足だと思う。一案として回覧板にチラシを入れて回すのはどうか。そして市長と語る会でもPRした方が良いと思う。	（市長） PRが足りないとご指摘をいただいておりますので、回覧板の利用なども考えたいと思います。良い事ですし、すくすく号の運行は、子どもたち、地域の方にも喜んでいただいているようですので、もっともっと広がりを見せ、有効になるように工夫を重ねてまいりたいと思います。 （教育長） 太宰府市は、図書館に来ていただく、図書館から本を皆様に届けるアウトリーチの二つの方法を使いながら市民の皆様に本に親しんでいただく形をとっております。アウトリーチというのは、黄色のすくすく号で各地を回っている移動図書館です。なかなか十分ではないところもあるかと思いますが、近郊に比べてすくすく号の利用は大変多く、喜ばれております。なかなかここまで移動図書館をしている市町村は無く、太宰府市の特徴と言えると思います。学校の図書室にない本も子供たちに届けることが出来、好評を得ています。回る時間等の限りがあり、十分ではないと思っておりますが、これからもPRをもっとしながら、きめ細かく皆様のご要望に応えられるように努力を進めてまいりたいと考えております。 【後日回答：教育部】 広報だざいふ３月１日号に、移動図書館車（すくすく号）巡回予定表を掲載いたしました。回覧板を含めPR方法について今後も検討いたします。

		質問・意見等	区に対する回答
質問者２	意見	太宰府東小学校から高雄公園に下りてくる遊歩道が、平成26年に2000万円位予算化されて話が進んでいたと思うが、土地の買収か何かで今頓挫している状態なのではないか。それからもう5,6年になるので、現在その話はまだ生きているか、進行中か、今後どういう風にしていくのか。市が買収したいと言っても、土地を売る人が全部土地を買ってくれと言った場合は市としては無理なところがあると思う。道が出来ると、五条方面、あるいは青山方面からたくさんの人が高雄公園を利用出来るので、何としてでも前進し実現して欲しいと強く願う。	（都市整備部長） 平成26年度に公園の予算を2000万円つけ、まずは用地の取得を相談に行くという事でやっておりました。これにつきましては、過去平成22年の6月議会、平成25年の6月議会の一般質問でどうなっているのかと、また、26年3月議会でも経過質問を受けておりました。それで地元の要望を受けまして、地権者の方に用地、道路を高雄公園から上って東小学校の所に道を作るという計画で、どうしても個人の土地を買収しなければいけないという事で、4回程個人の方とお話をしました。しかし約2mから3mの歩道の幅では買収に応じられないという事で、持っていらっしゃる土地を全部買ってもらえればというお話でありましたので、予算的に大きな金額になることから、いま交渉していないという状況です。今後につきましては、改めて検討してまいります。

		質問・意見等	区に対する回答
質問者３	意見１	学校の働き方改革について。プールの民間への委託の件は素晴らしい取り組みだと思っている。子どもたちの泳力、技能が専門の方にみていただく事で身についた。中学校給食を実施するのは、税金の面でも難しいだろうと感じるが、ランチサービスの栄養面や、どういった献立内容なのかということが、もっと市政だより等で公表されたら、こういう栄養面なら給食に遜色ないな、と市民に伝わると思う。給食が導入されるかどうかわからない状況であれば、ランチサービスの情報公開をしていく工夫があればいいと思う。	（市長） 中学校給食をどうするべきか議論を重ねております。しかし予算をどう捻出するかに尽きるところもあります。ランチサービスがありますが、よく知られていないところも確かにあり、いわゆる完全給食には、栄養面でランチサービスでは至っていないところもあります。しかし、親御さんが共働きなどでお弁当が作れないので何か宅配を持ってきて欲しい、買えるようにして欲しいというニーズにはお応え出来ています。そうした中でランチサービスに就学援助をつけ、収入の少ない家庭の方はランチサービス代は支払うことなく食べることが出来るようにしています。お弁当の方が美味しくて経済的というのもあるようで、親御さんやお子さんがむしろお弁当のままが良いという方もかなり割合としては多いと聞いていますので、ランチサービスがどうなのかということを率直に皆様にお伝えをしていく事は重要なことだと思っております。そのうえでふるさと納税などでもしっかりと収入、歳入を増やし、歳出も見極めながら、将来的には給食を目指していきたいと考えております。 【後日回答：教育部】 ランチサービスのPRとして、6月に中学生の試食会、3月に小学6年生児童および保護者の試食会（※本年度は新型コロナウイルス感染症対策のために中止）、小学校6年生の謝恩会において保護者を対象にPR、中学校入学説明会において小学6年生保護者を対象にPR、市ホームページにてランチサービスのPRとメニュー、申込書の掲出を行っております。今後も、ランチサービスについて、多様な方法で広く情報を発信してまいります。

		質問・意見等	区に対する回答
質問者３	意見２	子ども･学生未来会議の取り組みについて。昨年中学校でされて、子どもたちが政治や社会に興味を持ち、意義深いと思った。小学校では子ども・学生未来会議の予定はあるのか伺いたい。	子ども・学生未来会議ですが、昨年は中学生に議会に質問いただき、私も含めて答弁をさせていただくという本格的な議会、そして要望などの市政運営にも取り入れていこうという事で実際に行いましたが、小学生は参加出来ておりませんでした。しかし今度の 2 月に令和の名付け親と言われている中西進先生を本市にお招きをして、22 日の講演会の後に小中学校の代表者に中西先生に対して令和のまちづくりをこうしたいという事を発表いただいて、中西先生から講評をいただくという企画をいま考えております。令和の名付け親の先生と子どもたちが意見交換出来るという事は貴重な経験になるのではないかと期待をしております。 【後日回答：教育部】 中西進先生をお招きして 2 月 22 日に小・中学生を対象に子ども・学生未来会議を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のために中止となりました。今後も、小学生や中学生、高校生等から、会議の内容に応じて参加対象を決め、充実した会議となるよう努めたいと考えております。

		質問・意見等	区に対する回答
質問者4	意見	4 月から燃えないごみに白い袋が出来て、9 月からはそのまま緑色の袋に入れていたら、紙を貼って置いていくという事だったが、環境課から 12 月のクリーンデーの後、回収されなかったごみ袋があったら、公民館の前に置いておいてくれれば全部持って行きます、また、来年の 6 月もやりますと言われた。回収されなかったら公民館の前に持って行けばいいとなる。公民館はごみ置き場じゃない。せっかくみんなに協力してもらった中で、環境課の方からそれを崩すような事をしてもらうと住民が迷惑すると思う。	（市民生活部長） これまで燃えないごみは緑の袋 1 枚で、びん・缶類、その他の燃えないごみということで、ごみの持ち出し日は違いますが、同じ袋を使っていただいていました。しかし、なかなか分別が行き届かないという事もあり、4 月から新しい透明の袋を導入させていただきました。しかし、周知が行き届かない点もあり、そのまま緑の袋で出されているご家庭も多かったようです。このため、当初移行期間を 6 月位までと思っておりましたが、8 月まで延ばして皆様に周知を再度図ってきたところです。地域によっては、そのままごみ袋がいつまでも放置されているような状態の所もあり、6 月の環境美化強調月間、12 月のクリーンデーにつきましては、市内の美化を推進するという意味がありますので、いつまでも置いておくと地域の美化がどうなのかという事もございますので、環境美化強調月間とクリーンデーの時は区民の皆様が一緒に片づけてもらった物については市で回収をしましょうという事でお話させていただきました。ご理解、ご協力をお願いいたします。

		質問・意見等	区に対する回答
質問者5	意見	クラウドファンディングやふるさと納税等に前向きに取り組まれていると感心している。野球の寄付やふるさと納税にも変化をもたせたりと、今までとは違う変化が出てきているので、何か部署を新設し人的に補強を図ったのか伺いたい。また、ふるさと納税の仕組みがよく分からないので、中身や今後の取り組みについて伺いたい。	（市長） ふるさと納税は東京に出てきた地方出身者がふるさとに何か恩返しが出来るようなシステムを作ろうというのが元々の趣旨です。なかなか最初は芽が出なかったのですが、筑陽学園の甲子園出場の件から、地元を応援したい、子ども達・学生を純粋に応援したいという人に寄付をしてもらおうということで趣旨が合うのではないかという思いからスタートしました。部署を増やしたわけでなく、職員が非常に頑張ってくれ、いろいろな情報を全国から集めて、出来るか出来ないかを慎重に探ってくれながらこぎつけました。法人税や市民税など税収が増えると国から交付税が逆に減らされてしまい、意欲が出にくいというのがありますが、ふるさと納税は増えた分そのまま使えるという面でも可能性がある分野なので、この点は力を入れて2億円にとどまらず、5億円、10億円と増やしていければ皆様への還元も可能になるので更に力を入れたいと思います。 私としましては本当は秘書広報課を持ちたいのですが、条例の改正がいるということで、まずは秘書係を二人から三人に増やしました。こうした中で皆様のご要望などを私がダイレクトに聴きやすくする、ということを心がけているところです。一方で筑紫地区は全国的にみると人口に対する職員が少なく、それぞれが仕事の幅が広がっているという悩みもありますので、適正規模を考えていきたいと思っております。

		質問・意見等	区に対する回答
質問者6	意見	コミュニティバスや西鉄バスの本数が少ない。タクシーも回線が混み合い、繋がらず困っている。バスの時間も遅れるので予定が立たない。高齢者の運転免許証の返納を言われるが、交通難民で困っているのでどうにかして欲しい。	（市長） 出来ることなら路線バスを更に拡大し本数も増やしたいと思いますが、やはり予算的なものがあり、現状コミュニティバスはかつてからの路線拡大の中で、年間1億5000万円の公費負担で補填をしています。ですのでこれを増やしていく事は至難の業であり、またバスの運転手が不足、そしてタクシーも自由化合理化を進めているのか、不便さを感じておられるのはよく認識しております。そうした中で今、太宰府市地域公共交通活性化協議会などで議論をしていただいています。今までのようにコミュニティバスの拡大だけで考えるのか、デマンド交通で路線だけを決めるのではなく、様々な来てほしい所にタクシーのような形で来てもらったり、バス停が無い所にも停まってもらう等、そうした研究も進んでいるようです。現時点でどうするという事は言えませんが、これから高齢化が進むうえで日本全体の社会問題になると思いますので、国や県の動向も見ながら、出来る限り要望に応えられるように充実をさせていきたいという思いです。